

1 新しい学校づくり阿南市地域協議会における論点整理

開催日時

- 第1回 平成18年10月11日(水)
- 第2回 平成19年1月15日(月)
- 第3回 平成19年8月6日(月)
- 第4回 平成19年12月19日(水)
- 第5回 平成20年3月7日(金)

(1) 新しい学校の教育について

起業家育成教育の充実を図って欲しい。

阿南地域にどれだけ魅力、活力がある高校をつくるか、少子化など社会の変動の中、21世紀の社会がどうなっているのか。21世紀の担い手として何が求められているかを考える必要がある。阿南地域が活性化する職業教育が必要である。特徴的な教育の内容を協議する前に、阿南地域、県内の人口や生徒数、企業の要求する人材についての共通理解が必要である。

21世紀の少子高齢化の中で生きていく力は、社会人としての常識、学力、倫理観である。それを身につけた人材を育成する教育が必要であり、高校で職業人としてのベースを創る必要がある。

工業と農業のメリットを生かした教育を考える。

自ら目標を定めて、生きる力を養っていくことが大切であり、そのためには、学校規模を確保して、多様な科目選択が可能な学科を目指す必要がある。

高校受験のときに自分の将来を決めている生徒は一握りであるため、高校に入ってから、自分の将来をきちんと決められるような学校、教育システムにしていきたい。

新しい学校の土台づくりには、自分の人生のあり方や生き方を考えることなどを通して自己実現を目指す総合学科の教育のメリットが活かせる。

家庭と学校との連携が大切であり、保護者が来やすい学校とし、子どもも保護者も興味を持てる学科を設置して欲しい。

P T A や同窓会など、地域と連携する必要がある。また、一つの学校のP T Aだけでなく地域の学校と連携を取り、学校の枠を越えて協力していく必要がある。子どもが多様な教育を選択できるように、阿南地域にも中高一貫教育の導入が必要である。

【地域協議会委員へのアンケートから】

21世紀の日本社会が求める人材を育てるという視点で検討すべきである。

I T ・コンピュータ系をより充実させ、即戦力の人材育成が必要ではないか。

「ものづくり」科は分かりにくい。地域が何を求めているか探り、それに対応したものにすべきである。

再編によって、今まで以上に充実した教育がなされ、生徒たちが誇りを持てる高校の誕生を願っている。

(2) 新しい学校の教育の基本方針について

目指す学校像

- ア 生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばす学校
- イ 国際化，情報化など時代の変化や多様な生徒の進路に対応できる学校
- ウ 望ましい職業観，勤労観を育成する学校
- エ 豊かな人間性をはぐくむ学校
- オ 地域に開かれ，地域に貢献できる学校

育てたい生徒像

- ア 自ら学び，自ら考え，主体的に判断・行動できる心身ともにたくましい生徒
- イ 国際化・情報化社会に対応できるコミュニケーション能力や情報活用能力を身につけた生徒
- ウ インターンシップなどを通して，望ましい職業観，勤労観や社会規範を身につけた生徒
- エ 互いの人権や自他の生命を尊重し，支え合う仲間づくりに努める生徒
- オ 地域の一員として，ボランティア活動などにも進んで取り組める生徒

(3) 新しい学校のあり方・教育内容について

阿南工業高校と新野高校とを再編統合する新しい高校が，富岡西高校，富岡東高校と並び立つような素晴らしい高校となるように考えていく必要がある。

現在行われている阿南工業高校，新野高校の教育や伝統を大切にして引き継ぎ，統合されたときにそれらを相互に活かしていくことも重要である。

普通科と比べると，職業科は，卒業後地元就職する生徒が多く，地域との関わりが深い。技術者や職業人としての視点を持って考えていく必要がある。新しい学校の魅力づくりのため，新しい学校を卒業すると地元就職できるようにする必要がある。

阿南地区には多様な産業があり，卒業生が就職できる場があるため，地元で育ち，地元の産業をさらに発展させ，地域を担っていく人材を育成するという観点が必要である。

(学科や系列について)

県南の産業，工業基盤を支えることや今までの実績を考えても，阿南工業高校の機械，電気，土木の3分野の教育は必要であり，この3学科の存続については地域からも支持される。

総合学科の課題として，増加傾向にある女子の受け皿となる系列の検討が挙げられる。そのため商業関係の系列の設置などについても検討する必要がある。

現在の阿南工業高校と新野高校で展開されている教育をそのまま引き継ぐだけではいけない。新しい教育内容や学科について検討する必要がある。

生徒数が減少していく中で学科も精選していく必要があり，多くの学科を設置することはできない。看護，食物などの教育が必要ということになれば，学科やコースではなく総合学科の選択科目として開講することで，生徒のニーズに対応できるようにしていくことがよいのではないかと。

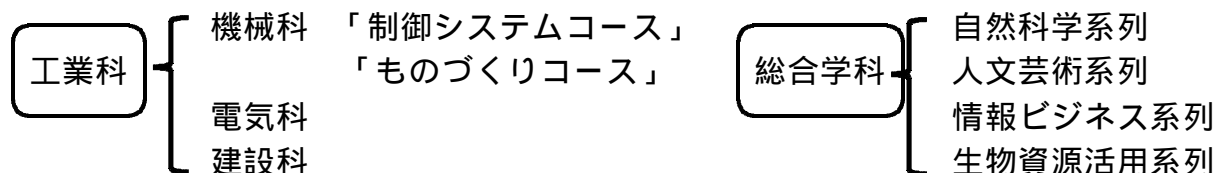
(その他)

教育内容が大切であることは理解できるが，学校規模や施設のことを具体的に協

議していかなければ、理念ばかりに終始して具体的な図面を描けない。財政的に厳しいことは理解するが、魅力ある学校を目指す以上、既存施設の有効活用ではなく新設がよいのではないか。

(4) 新しい学校の設置学科等について

設置学科（小学科，系列は仮称）



生徒募集

工業科………小学科毎に募集する。

1年生から，機械科，電気科，建設科に分かれて専門的な学習に取り組むことにより，高い専門性を身につける。

総合学科………総合学科全体で一括募集する。

1年次の「産業社会と人間」の学習や進路指導等を通して，自己の在り方や生き方，職業などについて考えた後に，能力・適性，興味・関心，進路の希望などに応じて2年次以降の科目を選択し，自分の時間割を作成する。

総合選択制

学科の枠を越えた科目選択ができる総合選択制を取り入れ，工業科，総合学科を併設するメリットを活かして，多様な科目選択を可能とする。

高校卒業後，さらに専門的な研究に取り組むため，大学進学を目指す工業科の生徒が，例えば，「数学」，「物理」，「リーディング」など受験に必要な科目を，総合学科の科目の中から選択できるようにする。

工業分野に興味・関心がある総合学科の生徒が，例えば，「機械工作」，「原動機」，「電気基礎」など工業科の科目を選択し，工業科の実習施設を使って学習することができるようにする。

【意見】（設置学科について）

2つの学科を併設することによる総合選択制というメリットは理解できるが，新しい高校という期待感からすると，現在の2校の工業科と総合学科をそのまま併設することに，何か物足りない感じがする。

工業科を総合学科の中の工業系列として包含してもいいのではないか。（工業科については，小学科制で募集して目的意識をもった生徒を集め，1年生から電気等の専門的な勉強ができるようにすることで成果を上げたい。そのため，総合学科とは別に工業科を併設することを提案している。）

自分の道がまだ決まっていない子供には，選択肢が広がった総合学科に将来の進路について勉強していく機会が準備され，一方，工業科には，入学時から専門性を高めたい子どもを伸ばせる場があり，企業等にもアピールできる案となってお

り良い。

高齢社会の中で福祉分野の人材の育成が求められているが、県南には福祉の人材を育成するような高校の学科がないので、それができないか。(阿南市地域から、小松島西高校の福祉科に通学可能と考えている。福祉をコースや科で置くか、選択科目として設置するかの問題だと思う。教育内容の科目立ての段階で、どういう科目を置くのか考えたら良いと思う。)

環境面とか、食料の供給とか、農村文化の維持とか、色々な観点はあるが、日本の将来を考えると農業は大きな役割を持っており、大きな課題となってくると思う。農業経営者の育成という視点をもう少し強くさせないか。(高校卒業後、すぐに農業に従事する生徒はほとんどいない。農業に興味・関心を持たせて、上級学校につないでいくという観点で農業自営者の育成ができると考えている。)

小学科で環境や防災についても、学べたらいいと思う。(生徒数が減少していく中で、環境や防災に関する小学科を持つことは難しいと思う。環境については「地球環境化学」という科目の中で学習可能であり、防災関係についても、学校設定科目として取り入れることが可能である。総合学科でも、農業に関する系列の中から「環境科学基礎」などの科目を選択して、環境について勉強することができる。)

阿南工業高校コースと新野高校コースの合体にしか感じられないなら、中学生及び保護者にとって魅力的にはなりにくい。今までに無いたくさんの科やコースを設け、幅広い進路選択に対応できる高校になれば、その可能性・柔軟さが魅力になる。そこで、富岡東の商業科(富岡東は、普通科、商業科、看護科の羽ノ浦校、それに中高一貫校と多岐にわたることもあり)も含めて検討すれば、阿南地域全体を考えた新しい学校づくりになっていくと思う。

【意見】(総合選択制について)

総合選択制が導入されると、自分の興味に合わせて選択できる選択科目が増え、新しい学校の魅力づくりが提案されることになる。

両科の生徒が選択できる総合選択科目に、「育てたい生徒像」にあるボランティア活動に関する科目や福祉、環境など共通なベースになる科目を置いて、新しい学校の特色とすれば、内容が充実すると思う。

大学進学を希望する生徒が多いことを考えると総合選択制も必要だが、専門性が薄まらないように、小学科制で専門性を高めていくことが大事なことだと思う。総合選択制を生かすためには、キャンパスを1つにするということが前提となるのではないか。(設置場所等については、後の機会に議論する。)

【意見】(生徒募集について)

工業科も、中学生の実態からすると、現在の類・コース制すなわち、1年生で基礎的な内容や機械、電気、土木に共通する内容を全部勉強した上で、自分はどのコースに進んでいくか考える一括募集がいい。中学校の先生は一括募集を要望している。(阿南工業の一括募集の類コース制には、5人しか希望しないコースがある。このままでは設置できないコースができ、必要な教育が提供できなくなる可能性がある。また、学科の目標に沿って、地域の産業をきちんと支える生徒を育てるためには、1年生から資格取得のための専門教育ができる小学科制にし、

目的意識を持った生徒を集めたい。今の阿南地域の状況を考えたとき、機械、電気、建設の3つの教育を確保する必要がある、定員をきめて募集できる小学科制がいいと考える。)

【意見】(特色ある教育について)

提示された新高校は、新野高校と阿南工業高校の現在の課程をそのまま併設という形である。中学3年生にすれば、現在の阿南工業高校と新野高校が、ただ一緒になったんだという受け止め方しかできない。県南に素晴らしい新しい高校ができるんだという、もう少し夢のある構想が出せないかというのが一般住民の感覚だ。新しいキャンパスに、素晴らしい高校を作ったらどうかと言ったが、今回、併設で総合選択制という新しいイメージを出そうとしているが、苦肉の策だと思う。県南で唯一の総合高校的なもっと幅広い選択できる多くの科目を開設して、この高校に入って主体的に自分の進路を判断し、先生方も的確に進路指導ができる、もう少し幅の広い課程が設定できないか。

再編が先なので、伝統も大事だが、これからどういうふうなニーズがあるのかという部分もしっかり考えないといけない。現在、阿南工業高校と新野高校の志望がかなり少ない。今後少子化に向かっていくと、今のままの工業科と総合学科では志望はさらに少なくなっていく。スポーツや商業も入れて魅力あるものにし、保護者や子どものニーズに応えないと、先が心配である。

総合学科に新たに情報ビジネス系列を入れてある。商業科は設置していないが、新しい学校の魅力として、商業教育を取り入れる方向である。

【意見】(教育施設について)

土地は2校のうちのどちらかを使うにしても、施設についても、現在の建物を使うということなのか。1カ所でするとしたら、施設が不足するので、新しく作る必要があると思う。(基本的に耐震化して使えるものは、新築しないで耐震化していく。既存の施設で不足して、何かを作らなければ新しい教育ができないのであれば、それは整備を考える。)

総合選択制を導入すれば、キャンパスは1つが相応しいと思う。

座学は阿南工業高校で実施して、農業実習は新野高校に行ったらいいと思う。農業施設などの管理等は、地元のボランティアにお願いしたらどうか。大学でも実習に遠くまで行っているが、実習に行くというのは、学生にとって気持ちも新たになるし、今まで培ってきたものを守っていけるのではないかと思う。

普通科を作るのは、建物や体育館の広さだけで考えられるが、農業や工業は施設が絡んでくる。阿南工業高校にした場合は、農業施設が必要になり、新野高校にした場合は、工業施設が必要になる。専門的に計算し整備すればいくらかいるのか具体的に提示してもらえないのか。(教育内容が決まらないと、どの施設をどう使うか決められない。どんな教育内容が相応しいのかということが決まれば、施設など教育環境の整備について案が提示ができる。)

2 新設高校の教育内容

(1) 教育内容について

工業科

機 械 科	制御システム コース	各種制御に関する知識や技術を習得するとともに，電子機器やロボット工学などのメカトロニクス分野の技術を身につけ，機械制御分野で活躍できる技術者をを目指す。 機械及び制御関係企業への就職 工学系の大学や専門学校への進学
	ものづくり コース	「ものづくり」の基礎基本を身につけ，インターンシップなどを通して実践的な技術を磨くことにより，ものづくり分野で幅広く活躍できる機械技能分野のスペシャリストを目指す。 地域産業関連企業への就職，起業家 工学系の大学や専門学校への進学

電 気 科	電力・通信・制御に関する知識や技術を習得し，インターンシップなどを通して実践的な技術をさらに磨き，生活に欠かせない電気分野で幅広く活躍できる技術者をを目指す。 電力・通信系企業への就職 工学系の大学や専門学校への進学
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

建 設 科	土木に関する知識や技術を習得する。さらに，建築について学べる科目を選択することで，住まいから都市計画まで社会基盤の整備に関する分野で幅広く活躍できる技術者をを目指す。 建設・建築系企業への就職 工学系の大学や専門学校への進学
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

進学への対応・・・各小学科とも，より高い知識や技術の習得を目指して大学，専門学校などへの進学を希望する生徒に関しては，総合選択制のメリットを生かし，受験に必要な科目の学習ができるように配慮する。

総合学科

自然科学系列	<p>数学や理科など自然科学の内容を中心に学び，自然科学分野の基礎学力を身につけるとともに，実験や観察などを通して，物事を科学的に考察し，処理する能力と態度を身につける。</p> <p>理系の大学や専門学校への進学を目指す。 企業への就職</p>
人文芸術系列	<p>国語や外国語など人文科学の内容を中心に学ぶことを通して，読解力や表現力，コミュニケーション能力など，国際社会で活躍できる能力と態度を身につける。また，芸術の学習を通して，鑑賞能力や感性，創造的な表現力を高める。</p> <p>文系，芸術系の大学や専門学校への進学を目指す。 企業への就職</p>
情報ビジネス系列	<p>情報と商業の専門科目を融合して学ぶことを通して，情報収集・発信能力やビジネス力など，デジタル化，ネットワーク化された情報社会に対応できる能力と態度を身につける。</p> <p>関係企業への就職 情報・商業系大学，専門学校への進学や就職を目指す。</p>
生物資源活用系列	<p>農業の基礎やバイオテクノロジー等の技術を学ぶことを通して，生産性を高める栽培方法や環境にやさしい農業について研究するなど，生物資源を有効に活用できる能力と態度を身につける。</p> <p>関係企業への就職 農業系大学，専門学校への進学や就職を目指す。</p>

(2) 資格取得について(案)

工業科

【共通】

乙種危険物取扱者，初級システムアドミニストレータ試験，計算技術検定，
小型フォークリフト運転技能講習，情報技術検定，基礎製図検定 など

【機械科】

2級ボイラー技士，3級技能検定，ガス溶接技能者講習

【電気科】

第三種電気主任技術者，第一・二種電気工事士，A I・D D種工事担任者

【建設科】

測量士補，土木施工管理技士，小型車両系建設機械運転技能講習

総合学科

【共通】

数学検定，理科検定，英語検定，漢字検定，デザイン検定

【情報ビジネス系列の科目選択者】

情報処理検定，簿記検定，パソコン検定

【生物資源活用系列の科目選択者】

バイオ技術者認定資格，危険物・劇毒物取扱資格

両学科の【共通】の資格に関しては，校内外の講習会等を受講することが条件となっている資格もあるが，すべての生徒が受験することが可能である。

(3) 特色ある教育について

生徒の能力・適性，興味・関心や就職から進学まで多様な進路希望に対応するため，工業科，総合学科併設のメリットを生かして，学科の枠を越えた科目選択ができる総合選択制を導入する。

「ものづくり」のすばらしさを体験し，問題を発見し解決する能力や自分の考えや思いを的確に表現する力を身につけるため，地域の素材や地域の技術力・教育力を活かし，農業，工業，芸術などにおける「ものづくり」を推進する。

望ましい職業観，勤労観や社会人として必要な能力や態度を育てるため，地元企業や地域社会，N P Oとの連携を深め，インターンシップなど校外における体験的，

実践的な学習を積極的に取り入れる。

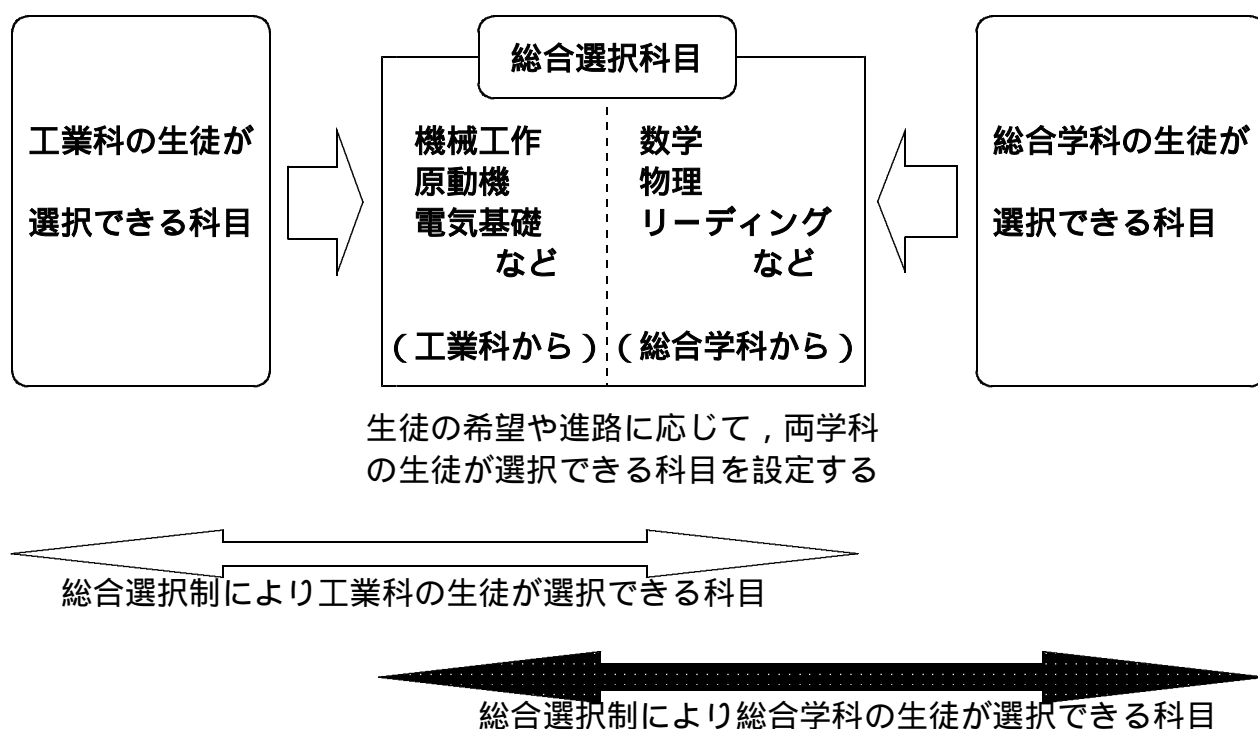
人とのかかわりの少なさや生活体験の不足などを補い、思いやりの心をもつ次世代の担い手を育成するため、自らを成長させ、地域に貢献できるボランティア活動や社会体験活動を推進する。

(4) 総合選択制について

工業科と総合学科の枠を越えた科目選択ができるシステムで、生徒の多様な科目選択が可能となる。

高校卒業後、さらに専門的な研究に取り組むため、大学進学を目指す工業科の生徒が、例えば、「数学」、「物理」、「リーディング」など受験に必要な科目を、総合学科の科目の中から選択できるようにする。

工業分野に興味・関心がある総合学科の生徒が、例えば、「機械工作」、「原動機」、「電気基礎」など工業科の科目を選択し、工業科の実習施設を使って学習することができるようにする。



阿南工業高校には、「機械電子コース」、「電気コース」、「情報土木コース」、「理数コース」の4コースがあるが、進学については「理数コース」で対応することとしていた。

機械科、電気科、建設科すべての小学科において、進学を希望する生徒は、総合学科の科目から入試に必要な科目を選択できるようになる。

総合学科の科目を工業科の生徒も選択できるようにすることで受講人数が増え、総合学科だけでは希望者が少なく開講できなかった科目についても開講できるようになる。

3 新しい学校の教育環境等について

(1) 阿南工業高校と新野高校の施設等の比較(H20.9)

		阿南工業高校	新野高校
平均校舎築年数		39年	32年
校舎等面積		33,877 m ²	26,857 m ²
内 訳	教室棟・管理棟など	5,193 m ²	4,526 m ²
	実習棟など	9,620 m ²	4,759 m ²
	温室	m ²	2,215 m ²
	食堂 + 宿泊(研修)	565 m ²	566 m ²
	体育館	2,734 m ²	1,475 m ²
	格技場	581 m ²	418 m ²
	部室	109 m ²	158 m ²
	雨天練習場など	m ²	192 m ²
	その他	15,075 m ²	12,548 m ²
運動場		45,824 m ²	13,564 m ²
農場		m ²	11,394 m ²
保有水路, 道路		5,000 m ²	m ²
校地面積(合計)		84,701 m ²	51,815 m ²
教室数	教室棟	19室	本館 7室 南校舎 9室
	計	19室	計 16室
新耐震基準の建物	宿泊訓練棟 体育館 化学工業管理実習棟 第3機械電子棟 第4機械電子棟 部室	部室(2棟のうち1棟) 農具庫 園芸実習室(3号温室) 園芸実習室(温室) 農業機械実習室 環境緑化プラント(温室) 温室(正門南) 温室(順化) 温室(熱帯果樹) 雨天練習場	

(4) 新高校での総合学科必要施設

NO	教室名	需要数
1	普通教室	16
2	コンピュータ室	2
3	物理実験室	1
4	化学実験室	1
5	生物実験室	1
6	地学実験室	1
7	被服実習室	1
8	調理実習室	1
9	音楽室	1
10	美術室	1
11	書道室	1
12	工芸室	1
13	社会科教室	1
14	生物工学実験室	1
15	バイテク無菌室	1
16	農業基礎教室	1
17	生物生産室	1
18	資材室	1
19	温室(順化)	1
20	温室(水耕)	1
21	温室(一般)	1
22	農場管理室	1
23	男子更衣室	1
24	女子更衣室	1
	教育支援システム	1
	講演会用ワークルーム	1
	個人ロッカースペース	

(5)新高校での工業科必要施設

科など	NO	教室名	需要数	設備等
共通	1	普通教室	15	
	2	情報処理実習室	1	
	3	電子計算実習室	0	
	4	物理室	1	
	5	調理実習室	1	
	6	被服室	1	
	7	書道室	1	
	8	音楽室	1	
	9	視聴覚室	1	
	10	図書室	1	
機械	11	機械加工実習室1	1	旋盤10台 フライス盤4台
	12	機械加工実習室2	1	NCフライス盤2台
	13	溶接実習室	1	ガス溶接機器3台 アーク溶接機4台 スポット溶接機1台
	14	CAD・CAM実習室	1	CAD・CAM実習設備1式
	15	ミニFA実習室	1	ミニFA実習装置8台
	16	自動生産実習室1	1	自動生産設備とNCフライス1台
	17	自動生産実習室2	1	自動生産設備とNC旋盤1台
	18	試験計測実習室	1	万能試験機1台 硬さ試験機3台
	19	原動機実習室	1	原動機実習設備
	20	コンピュータ室	1	コンピュータ30台
	21	製図室	1	製図机30台とイス
	22	課題研究室	2	
	23	鋳・鍛造実習室	1	
電気	24	高圧実習室	1	静電気実習装置
	25	電気機器実習室	1	送配電機器実習装置
	26	電気工事実習室	1	電気工事備品
	27	計測実習室	1	
	28	コンピュータ室	1	コンピュータ30台
	29	製図台	1	製図机30台とイス
	30	課題研究室	1	
建設	31	コンクリート試験実習室	1	コンクリート試験機1台
	32	施工実習室	1	パワーシャベル2台
	33	水理実習室	1	水理実習装置 1式
	34	測量実習室	1	GPS測量機器一式
	35	製図実習室	1	製図机30台とイス
	36	コンピュータ室	1	コンピュータ19台
	37	課題研究室	1	

(6) 両校の施設・設備等の特色

施設設備について

阿南工業高校

統合により生徒数が増加しても、現在の施設で普通教室の確保は可能である。
校地面積が広いので、新たな教育施設、実習農地の確保及び多くの部活動の実施が可能である。

工業実習設備が充実しているので、多様なものづくり教育の展開が可能。

新高校で農業教育を行う場合、新たな施設や実習農地を整備する必要がある。
教室棟の老朽化が激しく、大規模改修を図る必要がある。

新野高校

順化温室，熱帯果樹温室，農業基礎温室及び生物工学（無菌室，培養室）など
農業実験 実習用施設・設備が充実しているため，新高校における高度な農業教育が実施できる。

統合により生徒数が増加した場合，普通教室が不足する。

体育館やグラウンドが狭いことから，新高校での部活動の運営には工夫が必要である。

新高校で工業教育を行う場合，大規模な施設整備が必要である。

立地条件について

阿南工業高校

遠距離の生徒は，阿南総合寄宿舍（横見町）を活用できる。

J Rの駅が遠い。

阿南市内の高校が市内北部に集中する。

新野高校

J Rの駅が近い。

海部郡を含めた県南部の高校設置の地域バランスがとれている。

（海部高校，富岡西高校，富岡東高校）

小松島市地域からの工業科希望者の減が予想される。